

まちづくり交付金 事後評価シート
中央地区

平成20年12月

埼玉県飯能市

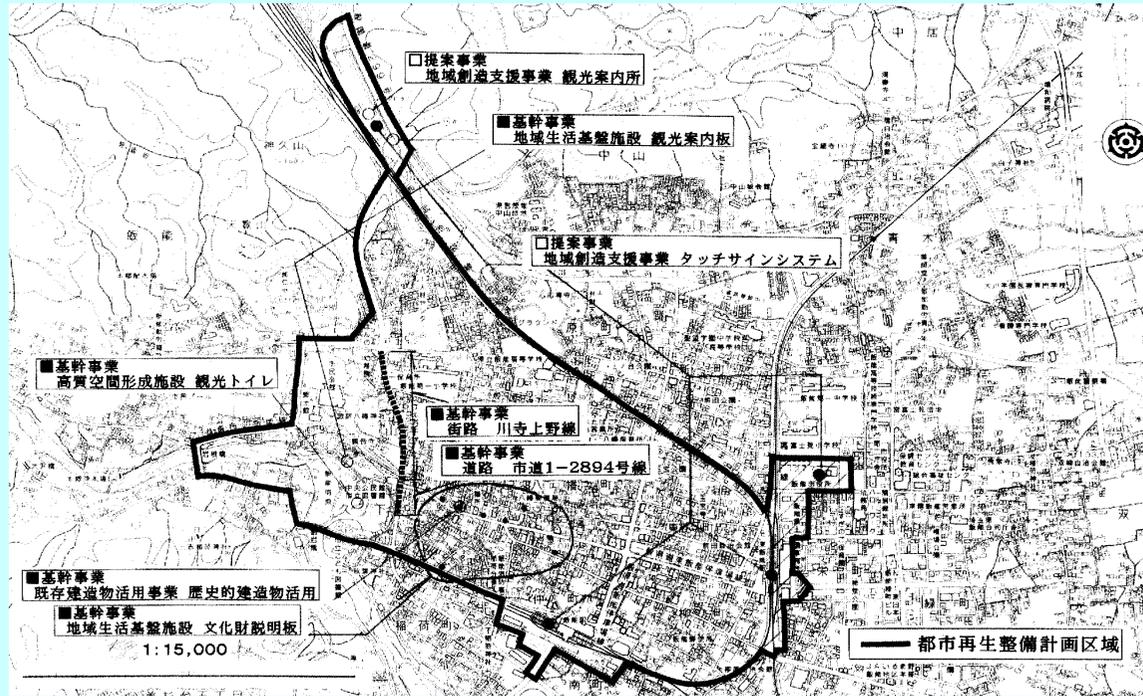
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	飯能市		地区名	中央地区			面積	134ha		
交付期間	平成16年度～20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	868	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	川寺上野線、観光案内板整備(7基)、観光トイレ整備(1箇所)										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	観光案内板整備(5基)			削除/追加の理由			追加した提案事業タッチサインシステムにより効率的・効果的な情報提供が見込めるため事業規模を縮小する必要が生じた			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	市道1-2894号線、文化財説明板整備、歴史的建造物活用事業			市道1-2894号線:交通協議の指導により交差点改良工事の追加 文化財説明板:歴史的建造物や指定文化財等を解説する目的 歴史的建造物活用事業:この施設での新たな集客を呼び、市街地活性化を図るため			市道1-2894号線:影響なし 文化財説明板:影響なし 歴史的建造物活用事業:その他数値指標2を設定				
提案事業		観光案内所整備、タッチサインシステム設置			観光案内所整備:郊外型商業施設の進出が予定されていることから、観光案内所を設置し、観光案内や特産品を発信することで市内活性化を図るため タッチサインシステム設置:効率的・効果的な情報提供が見込めるため			観光案内所整備:その他数値指標1を設定 タッチサインシステム設置:影響なし					
交付期間の変更	当初	平成16年度～20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	観光スポット利用者数	人/年	337,930	H14	355,000	H20		330,507	×	あり なし ●	平成17年1月に飯能河原の交通規制により車輛が進入できなくなったことが直接的要因	H22年4月
	指標2	公共公益施設利用者数	人/年	94,162	H15	100,000	H20		97,732	△	あり なし ●	目標値には達していないが、増加傾向にあり近年の傾向よりも改善している。	H22年6月
	指標3	市街地中心部の大型車交通減少率	%	100	H15	50	H20		6	○	あり なし ●	川寺上野線が開通したことが市街地中心部への大型車交通量の減少につながった。	H22年3月
	指標4										あり なし なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1	観光案内所利用者数	人/年	0	H19		17,453			観光案内や特産品を発信することで市内活性化を図ることができ、商業施設隣接地に設置したことで観光客以外の方にも利用を促進することができた。	H22年4月		
その他の数値指標2	店蔵絹甚入館者数	人/年	0	H20		5,128			明治時代創建の建物に触れ歴史を実感でき、人の往来が増えて市街地の活性化を図れた。	H22年4月			
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた									
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた									
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

中央地区(埼玉県飯能市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 緑と清流を基調とした観光レクリエーション拠点都市づくり 目標1 天覧山、飯能河原の観光資源を活かし、観光客を既存市街地に誘導することにより、中心市街地の活性化を図る。 目標2 観光地としての利便性を向上させ、観光資源の魅力アップを図る。 目標3 街路等の整備改善により、観光スポットへのアクセス強化を図ると共に、快適で安全な歩行空間を確保する。	観光スポット利用者数	単位:人/年	337,930	H14	355,000	H20	330,507	H20
	公共公益施設利用者数	単位:人/年	94,162	H15	100,000	H20	97,732	H20
	市街地中心部の大型車交通減少率	単位:%	100	H15	50	H20	6	H20
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H



まちの課題の変化

- ・駅からの来訪者に対する観光拠点・公共施設への誘導案内板等の公共サインの設置と案内拠点の整備によって利便性は向上した。また、案内拠点の整備による効果もあがっている。
- ・観光スポットのアピールは観光案内タッチサインシステムを飯能駅、東飯能駅、観光案内所及び市役所に設置したことで、魅力ある情報を発信できるようになった。
- ・観光トイレ等の観光施設の整備と歴史的建造物を利用した施設の設置による観光魅力アップは両者とも確実に進展し、観光魅力アップの一役を担っている。
- ・観光拠点へのアクセス向上と中心市街地の交通混雑の解消については川寺上野線開通に伴い、アクセスが向上し、中心市街地への大型車交通量が減少して解消された。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・タッチサインシステムの整備は達成できたので、今後についてはアピールする内容を再考しながら本市の魅力をもっとアピールするよう検討する。
- ・タッチサインシステムの内容の適宜更新については、商業者、市民と連携をとりながら協働での内容更新をおこなっていく。
- ・商業者、市民等とともに商店街の賑わい再生による中心市街地の活性化について検討していく。あわせて車輦による中心市街地へのアクセス向上も検討していく。

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		混雑時の図書館前交差点渋滞長	市街地中心部の大型車交通減少率	街路等の整備により、道路ネットワークの形成や歩行者の安全性の向上については、著しい改善が見られているが、従前の指標であった街路に接続する県道の渋滞長さについては、信号周期の見直しにより1路線付加されたことから、改善には至らなかった。そのため、事業効果を適正に表現できる指標として、狭隘な市街地道路の大型車交通量について評価の対象とするため
C. 目標値	●		300	50	上記同様(指標全体の見直しのため)
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	川寺上野線	948	L=520m	723	L=410m	土地単価・補償単価の下落による事業費減	影響なし	●	
道路	市道1-2894号線	—	なし	33	L=110m	H19年に計画変更して追加 交通協議の指導により交差点改良工 事の追加	影響なし		●
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設	観光案内板整備	30	大型案内板 3基 歩行者案内板 4基	5	大型案内板 2基	追加した提案事業タッチサインシステ ムにより効率的・効果的な情報提供が 見込めるため事業規模の縮小	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	文化財説明板整備	—	なし	1	絵馬型説明板 8基	H20年に計画変更して追加 歴史的建造物や指定文化財等を解説 するため	影響なし		●
高質空間形成 施設	観光トイレ整備	15	1箇所	10	1箇所	事業の見直しによる事業費減	影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活 用事業	歴史的建造物活用事業	—	なし	36	復原修理工事 (延べ床面積182 ㎡)	H19年に計画変更して追加 この施設での新たな集客を呼び、市街 地活性化を図るため	その他数値指標2を設定	●	
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理 事業(都市再 生)									
住宅市街地 総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度		モニタリング	事後評価	達成度	あり	なし		
指標1	観光スポット利用者数	人/年	—		337,930	H14	355,000	H20	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定	見込み	●	330,507	事後評価	
指標2	公共公益施設利用者数	人/年	103,268	H5	94,162	H15	100,000	H20	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定	見込み	●	97,732	事後評価	
指標3	市街地中心部の大型車交通減少率	%	—		100	H15	50	H20	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定	見込み	●	6	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	飯能河原観光客数及び奥武蔵自然歩道利用者数の数値が目標値であり、後者の奥武蔵自然歩道利用者数は大幅に増加しているが、前者の飯能河原観光客数についてはH17年1月に飯能河原の交通規制をおこない車輛が進入できなくなり、基準年度数値に対し人数が半減し、大幅に減少したため。	
指標2	事後評価の時点では目標値に達していないが、毎年度の調査結果によると増加傾向にあり近年の傾向よりも改善していると認められる。	
指標3	川寺上野線開通に伴い、事後評価時点でも着実に大型車交通が減少し、計測データでもあきらかに成果が得られたため。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	観光案内所利用者数	人/年	—		0		モニタリング			17,453	郊外型商業施設に隣接する場 所に観光案内所を整備し、飯能 市の観光案内所や特産品の展示 を行いながら新たな観光拠点と して、更なる魅力アップを図れ たため。
							事後評価	確定			
その他の 数値指標2	店蔵絹基入館者数	人/年	—		0		モニタリング			5,128	かつての中心市街地に位置す る歴史的建造物「店蔵絹基」を 公開し、明治時代創建の建物 に触れ歴史を実感すると共に、 中心市街地の活性化を図れた ため。
							事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
記載なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 実施したがヒアリング で認められなかったため)	●		
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
記載なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
記載なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
飯能市公共事業評価検討会議	総合政策部長、市民生活部長、建設部長、上下水道部長、政策企画課長、財政課長、農林課長、道路課長、建築課長、都市計画課長、下水道課長	第1回 20年8月22日 第2回 20年9月16日	都市計画課(まちづくり交付金担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2		指標〇	
指標名		市街地中心部の大型交通減少率		観光案内所利用者数		店蔵絹甚入館者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(川寺上野線)	◎	川寺上野線は市民生活の利便性向上に欠くことのできない路線として定められ、市街地中心部の大型車交通量に地域住民が悩まされていた。川寺上野線開通に伴い市街地中心部への大型車交通量が大幅に減少し、地域間交流の強化にも影響を与えることができた。	○	郊外型商業施設の進出が予定されていることから、観光案内所を設置し、観光案内や特産品を発信することで市内活性化を図る目的で進めてきた事業であるが、商業施設隣接地に設置することにより観光客以外の方にも利用を促進することができ、成果が得られた。	—	歴史的建造物「店蔵絹甚」を公開することによって、明治時代創建の建物に触れ歴史を実感できることにより人の往来が増え、さらに文化財説明板の効果もあり中心市街地の活性化を図れた。		
	道路(1-2894号線)	○		—					
	地域生活基盤施設(観光案内板整備)	—		○		△			
	地域生活基盤施設(文化財説明板整備)	—		—		○			
	高質空間形成施設(観光トイレ整備)	—		—		—			
	既存建造物活用事業(歴史的建造物活用事業)	—		—		◎			
提案事業	地域創造支援事業(観光案内所整備)	—		◎		—			
	地域創造支援事業(タッチサインシステム設置)	△		○		○			
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も関係課及び警察と連携をとり、市街地への大型車が進入しないように交通案内標識等で誘導をおこなう。	今後も地元特産品や地域情報を提供し、さらに観光客を誘致することで商店街等地域の活性化を図る。	今後も土日祝日に公開をして、歴史的建造物に親しんでいただくと共に、催し物などに貸与しながら活用をはかることによって、さらなる市街地の活性化を図る。
-------	--	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標○			指標○						
指標名		観光スポット利用者数			公共公益施設利用者数												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類				
基幹事業	道路(川寺上野線)	△	平成17年1月に飯能河原の交通規制をおこない車両が進入できなくなり、基準年度数値に対して人数が半減したことが未達成の直接的要因である。	II	△	事後評価の時点では目標値に達していないが、毎年度の調査結果によると増加傾向にあり近年の傾向よりも改善していると認められる。	I										
	道路(1-2894号線)	—			—												
	地域生活基盤施設(観光案内板整備)	△			△												
	地域生活基盤施設(文化財説明板整備)	△			—												
	高質空間形成施設(観光トイレ整備)	△			—												
既存建造物活用事業(歴史的建造物活用事業)	△	—															
提案事業	地域創造支援事業(観光案内所整備)	△							△								
	地域創造支援事業(タッチサインシステム設置)	△							△								
関連事業																	

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	飯能河原についての交通規制は解除できないことから、今後は環境保護等もPRしながら利用者数増加を目指していく。	毎年見直しを行っている講座等の改善により、さらなる利用者数増加を目指していく。	
------------------	--	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
(仮称)まちづくり検討会議	庁内の組織(事業に関する全ての課)	第1回 平成20年11月予定	政策企画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
来訪者に対する観光拠点・公共公益施設への誘導案内板等の公共サインの設置と案内拠点施設の整備	駅からの来訪者に対する利便性は向上した。また、案内拠点の整備による効果も上がっている。		郊外型商業施設へのアクセスが向上したことに伴い、流出した中心市街地の商店街利用者等を如何に呼び戻し、商店街の活性化を図るか、商業者、市民等とともに検討が必要となった。
観光スポットのアピール	観光案内タッチサインシステムを飯能駅、東飯能駅、観光案内所及び市役所に設置したことで、魅力ある情報を発信できるようになった。	情報の新鮮さも必要となるため、内容の適宜更新が必要である。観光スポットだけではなく、来訪者に本市の魅力を十分感じていただける内容としていく必要がある。商業者、市民等と協働でPRする必要がある。	
観光トイレ等の観光施設の整備と歴史的建造物を利用した施設の設置による観光魅力アップ	両事業とも確実に進展し、観光魅力アップの一役を担っている。		
観光拠点等へのアクセス向上と中心市街地の交通混雑の解消	川寺上野線開通に伴い、都市部から観光拠点等へのアクセスが向上するとともに、中心市街地への大型車の交通量が減少し、交通混雑が解消された。	中心市街地への交通混雑は解消されたが、郊外型商業施設へのアクセスも向上したことで、商店街の活性化が図れていない。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	タッチサインシステムを活用した観光スポットのアピールの強化	・システムの整備は達成できたので、今後の利活用を検討する。 ・アピールする内容を再考し、本市の魅力をもっとアピールする。	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	タッチサインシステムの内容の適宜更新	商業者、市民と連携をとり、協働での内容更新等をおこなっていく。	
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	商店街の賑わい再生による中心市街地の活性化	・商業者、市民等とともに中心市街地活性化に対する検討 ・車輛による中心市街地へのアクセス向上

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	観光スポット利用者数	人/年	337,930	H14	355,000	H20	確定 見込み ●	330,507	×	あり なし ●	平成22年4月	平成21年度「飯能河原観光客数調査」及び「平成21年度奥武蔵自然歩道利用状況報告書」を用いて確定とする。	
指標2	公共公益施設利用者数	人/年	94,162	H15	100,000	H20	確定 見込み ●	97,732	△	あり なし ●	平成22年6月	「平成21年度公民館利用状況調査」及び「平成21年度郷土館入館者数調査」を用いて確定とする。	
指標3	市街地中心部の大型車交通減少率	%	100	H15	50	H20	確定 見込み ●	6	○	あり なし ●	平成22年3月	評価値と同様、既存道路において平成21年度交通量調査を実施し、確定とする。	
指標4				H		H	確定 見込み			あり なし			
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし			
その他の数値指標1	観光案内所利用者数	人/年	0	H19			確定 見込み ●	17,453			平成22年4月	「平成21年度観光案内所利用者数調査」を用いて確定とする。	
その他の数値指標2	店蔵絹甚入館者数	人/年	0	H20			確定 見込み ●	5,128			平成22年4月	「平成21年度店蔵絹甚入館者数調査」を用いて確定とする。	
その他の数値指標3				H			確定 見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	従前値の交通量計測が詳細に調査されていたため評価値についても容易に比較し、効果を確認することができた。	数値設定については詳細に計測可能な事項を検討し決定することが評価値との比較が容易になる。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		指標設定時は関係課及び県整備並びに民間事業の動向も調査し、設定していく必要性がある。
	うまくいかなかった点	目標数値への影響が出る事態がおきた時(飯能河原への車輛進入禁止)に目標数値あるいは従前値等の修正ができるのか検討する必要があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後のまちづくり交付金の活用予定
道路整備や住環境整備の推進により交通安全性や防災機能の強化を進めるとともに、地域資源を活用した文化性の高いまちづくりを推進する。
- ・今後、事後評価を予定する地区
本市においては、平成22年度に東部地区の事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のHPに掲載	平成20年11月15日～ 最終評価結果の公表まで	平成20年11月15日～ 最終評価結果の公表まで	担当課への 電話、FAX、電子メール	都市計画課 (まちづくり交付金担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のHPで原案を公表し ている旨を掲載	平成20年11月15日発行 広報11月15日号	平成20年11月15日～ 最終評価結果の公表まで		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	
-------	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	駿河台大学 法学部 教授	第1回 平成20年7月18日 第2回 平成20年9月26日	都市計画課 (まちづくり交付金担当課)	帰属機関を活用(飯能市公共事業評価監視委員会)	既存組織(飯能市公共事業評価監視委員会)
その他の委員	前年度評価委員(再任) 議長 商工会議所 女性代表 自治会連合会 青年会議所				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・川寺上野線開通により市内への大型車交通量が減り、効果があったとの意見があった。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・確認をしていただき特に意見はなかった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・評価シート自体が分かりづらいとの意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・確認していただいた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・タッチサインシステムの効果を期待するとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・特になし
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。